

国民の日常に欠かせない情報通信の担い手として

総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

バブル期ということもあり、貯金や保険を扱う当時国営であった郵政事業に興味があったことと、こうした郵政事業に加えて、通信（NTT等）や放送（NHK等）といったICTも所管している当時の郵政省に興味をもちました。学生時代の就職活動の際に触れた霞が関の雰囲気は、民間企業のそれとは比べものにならないほど敷居の高さを感じましたが、郵政省に何度か通ううちに、郵便局・電話・テレビといった国民生活に不可欠なサービス等を所掌する官庁であることに親しみを覚え、志望した記憶があります。

これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

利用機会は減ってきていると思いますが、固定電話・公衆電話は日本全国に提供が確保されるべきサービス（ユニバーサルサービス）として法律に基づき維持することとされ、その費用の一部を「ユニバーサルサービス料」として通信事業者から請求されているかと思えます。平成19年にこの制度がスタートしましたが、当初、利用者に負担を転嫁することに否定的なご意見もあり、メディアからも多くの取材を受けましたが、皆様に制度の趣旨をご理解いただくよう努め、現在も続く制度を運用できたことがもっとも印象に残っています。

現在の携わっている業務について教えてください。

携帯電話の番号（090/080/070）や固定電話の市外/市内局番などの電気通信番号は、桁数等の制約がある有限希少ないわ

ば「資源」であり、番号企画室でこれを管理し、電気通信事業者に指定しています。また、今や生活必需品となった携帯電話については、電話番号を変えずに携帯会社を乗り換えること（MNP:mobile number portability）ができますが、利用者が自分にあったサービス・事業者を手軽に乗り換えることができるよう、MNP手数料の無料化など、MNP手続のさらなる円滑化に向けて取り組んでいます。

情報通信分野での総務省の役割を教えてください。

担当部局の観点で言えば、通信事業者の競争を促進しつつ料金の低廉化を図ること、日本全国への光ファイバの整備や5Gの早期普及を目指すことによりICTの利便を誰もが享受できるよう取り組むことです。また、我が国は、少子高齢化、地方創生、働き方、震災復興など多くの課題を抱えており、ICTの活用によりこれらの課題の解決につなげていくことが期待されています。加えて、ICTの国際競争力確保のための取り組みも重要であり、国民の皆様が豊かで便利な生活が送れるよう、こうした役割を担っていくことが重要です。

情報通信分野でのやりがいについて教えてください。

ICT分野は国民生活に身近なサービスであるがゆえに、総務省の取り組みが経済・国民生活に影響を与えるため緊張感があると同時に、非常にやりがいを感じます。また、地方勤務の際の経験になりますが、地方は都市部に比べて必ずしも十分ではない通信基盤の整備に対する需要があり、これを利活用して地域課題の解決につなげようと意欲のある自治体も多いと思います。こうした自治体に対する提案や通信事業者との調整を通じ

て通信基盤が整備され、地域の活性化、震災からの復興等に微力ながらも貢献できたことに充実感を覚えました。

受験者へのメッセージをお願いします。

コロナ禍においては、新しい日常を確立していくことが求められ、模範解答のない課題に果敢に取り組んでいくことが求められています。また、霞が関の職場環境に対しても様々なご指摘があるように、これを改革していかなければなりません。30年近くも役所勤務が続くと新しい発想にも乏しくなりつつあり、若い皆さんの新しい視点・発想が必要と感じています。生活に身近な電気通信分野のさらなる成長・発展に携わることに興味があり、この分野に新しい風を吹き込む意欲のある方は、ぜひ、総務省の門をたたいてください。



総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課
番号企画室長
鈴木 厚志

Suzuki Atsushi

入省後の略歴と職務内容

